

病理診断情報活用による地域がん登録の
登録精度向上津熊 秀明
大阪府立成人病センター調査部

病理診断情報は、地域がん登録の精度向上にとって、きわめて重要である。大阪府がん登録では、A大学の病院病理部と医療情報部から、がん診断情報を系統的に、定期的に得ている。手順を具体的に紹介する。

A大学付属病院は一般病床数1,024、新規のがん患者診療数は年間1,500程度と推測される。大阪府の最近1年間のがん罹患数は28,000程度であり、この施設からの届出の重みは極めて大きい。しかしこれまでは、届出は各医局に委ねられて、必ずしも十分ではなかった。病院病理部等の協力を得るようになったこと7、8年は、年間届出数が1,500程度となり、良好な届出率を確保するに至っている。

毎年、がん登録の届出や謝金支払い事務を担当している大阪府医師会が、会長名でA大学付属病院長及び病院病理部、医療情報部に、病理情報に基づくがん登録特別調査への協力を依頼する。その上で、中央登録室のある大阪府立成人病センター調査部が、病院病理部、医療情報部の各責任者と、採録の時期・内容・方法等について事前に打ち合わせを行い、情報を収受する。

病院病理部から、ファイルメーカープロでデータベース化した前年1年間の病理診断情報をMOディスクで受け取る。ここには病理診断情報がテキストで入力されており、これに加えて病歴(ID)番号、カナ氏名、検査依頼診療科コード、標本摘出部位、病理検査受付日及び検査日、等の情報が保存されている。これを登録室医師が持ち帰り、病理診断ががんのものを抽出する。今のところ、この抽出作業は手作業で実施している。こうして抽出したデータのID番号を医療情報部に示して、医療情報部から、該当者の漢字姓名、住所、性、生年月日、診断名を磁気ディスクで得ている。なお、一昨年前までは、病理部ではID番号を入力せず、検体番号しか入力されていなかった。そのため、検体番号を手掛かりとして検査依頼綴りから検索する必要があったが、病理部の好意でID番号を入力して頂けるようになり、作業効率が高くなった。

以上より、がん罹患数を計測するために必要な最小限の情報は確保できる。大阪府がん登録では、さらに、既存の届出情報と照合した上で、各診療科から未届出となっている患者について、上記内容を予め届出票に印字し、各診療科の届出担当者に、その他の診断・治療情報を追加記入して頂くよう依頼している。(4ページ右欄下へ続く)

病理採録による届出精度向上の為の試み

藤田 学
福井県がん登録

がん登録の精度の指標としては、死亡票のみで登録されるものの割合(DCO)と、組織診実施割合がある。福井県がん登録においてはDCOの割合は5%前後で全国的にみても高いレベルにあるが、組織診実施割合は70%前半で決して高い値ではない。当登録室では精度向上の1つの方策として、数年に1度、病理出張採録を実施している。第1回目は昭和63年に実施した。その方法及び結果については、「地域がん登録の精度向上とその利用に関する研究」班平成元年度報告書に、服部が報告した。

第2回は、平成10年に、大学病院からの届け出向上を目的として、大学病院の病理学教室に出張採録を実施した。採録方法の実際については、上記研究班平成10年度報告書のみてほしい。大学病院では医師の教育、訓練のために、診断、治療に重点をおき、末期医療は最小限に止めている。そのため、死亡票のみのものの割合は元来小さく、それから届け出精度を推測することができない。

そこで、病理出張採録を実施して、集めた病理診断患者の届出を、患者を取扱った臨床講座に依頼した。これにより、届出率および組織診実施率の向上を目指した。また、病理採録された患者が、取扱った臨床講座から地域がん登録にどれくらい届出されていたかを調べ、各講座ごとの届出率を推測した。

大学病院からの自主的届出の向上のためには、毎年、病院長、各講座の教授を歴訪し、がん患者の届出を依頼することが必要であるが、その場合にも、こうした各講座ごとの届出状況のわかる資料があると、とても役に立つと思われる。

今回の病理出張採録では2,977件の採録を実施し、そのうちの2,418件(81.2%)がすでに届出されていた。年次推移をみると、平成2年までは届出率が90%近かったが、平成3年、平成4年は80%を割り、平成5年には63%まで低下した。また、がんの診断数の多いと思われる9講座の届出率をみると、90%を越えているのが2講座、80-90%が4講座、60%前後が2講座、50%しかないのが1講座であった。

こうした資料を、大学病院のがん登録担当の教授にお渡しして、各講座からの自主的な届出を依頼した。

今回の病理採録による、未届出患者についての届出依頼、及びこれによる届出率と組織診実施率との変化については、数字が出次第、上記の班会議で報告する。